第34号　（2019年冬～2020年）
編集・発行　千葉市動物公園ボランティアーズ

千葉市動物公園の 見どころ セブンプラス

ボランティアがえらんだ

★それぞれの動物がいる場所はウラの地図をごらんください。

① イケメンのモンタと 口笛を吹くローラ

― ニシゴリラ ―

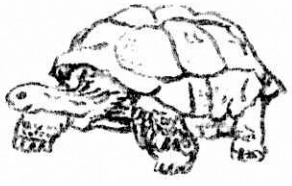
当園のゴリラは、オスのモンタとメスのローラです。通常ゴリラは頬まで毛が生えていますが、モンタは頬の毛を自分で抜いてしまうらしく、ツルツルでスッキリした顔。おまけに白いあごひげがあるものだから、かっこいいイケメンに見えます。一方ローラは、地面のミミズや虫を拾って頭にのせたり、機嫌がいいと口笛を吹いて遊んだりしています。口をとがらせていたら耳を澄ましてみてください。ヒューヒューという口笛が聞こえるかもしれません。ローラは人に育てられた期間が長いので、まわりの人の口笛をよく聞いていたのでしょう。

ゴリラは自分の名前が呼ばれると、呼ばれていることは分かるようですが、残念ながら返事はありません。気が向いた時だけこちらを見ます。

② ゆっくり成長　しっかり長生き

― アルダブラゾウガメ ―

こども動物園のゾウガメコーナーには、アルダブラゾウガメとケヅメリクガメがいます。ゾウガメは泥浴びが好きで、ケヅメリクガメは砂場で砂浴びをするのが好き。それにより虫などを落とし、体を清潔にしています。



一番大きなアルダブラゾウガメは60歳で体重が285kgあり、小さい方の個体は年齢不詳で45kg。ゾウガメもケヅメリクガメも180歳くらいまで生きると考えられています。

エサは草の他にハクサイやトマト・キュウリ等で、ゾウガメコーナー内にある桜の木の葉も好んで食べます。歩く時はしっかりと四本足で立ち、お腹を引きずらずに歩きます。足回りの皮膚は、六角形のハニカム構造となっており、重い体で歩く時の負荷を分散させています。

③ どなりあってるみたいだけど なかよし

― エリマキキツネザル ―

アフリカのマダガスカル島に住むエリマキキツネザル。フワフワした白黒の毛に包まれた体にとがった鼻、金色の目で、目立つ姿のようですが、森の中ではこの色がかえって目立たず、身を守っています。

朝、日が出るとお腹を日に当てて体を温めます。野生では果実、木の葉、花などを食べ、園でのエサはリンゴ、オレンジ、煮サツマイモ、煮ニンジン、固形飼料で、サルにはめずらしく手で持って食べず、犬のようにかがんで食べます。ウンチはさまざまな色で、何を食べたかわかります。ときどき大声でいっせいに鳴き出し、ケンカかと思われそうですが、仲間とのコミュニケーションをとっているだけ。よく聞くと1頭ずつ色々な声で鳴く、にぎやかなサルたちです。

④しっぽのハートが見えるかな？

― アカハナグマ ―

南米北部からアルゼンチンに至る広範囲の森林に生息するアカハナグマ。地上では鋭い曲がった爪で地面を掘り、よく動く突き出た鼻をつっこんで虫やミミズなどを探して食べます。樹上では爪と長い尾を器用に使い果実を採ります。雑食性なので園ではバナナ等果実や煮たサツマイモ・ニンジン、鶏頭、ドッグフード等を与え、おやつにはミルワームという幼虫を放飼場にまいています。輪模様のある長い尾はバランスをとるだけでなく、地上では立てて群れの仲間への目印としての役割もあります。

当園の2頭はどちらも2015年生まれの4歳。尾が短いのがメスのミミ、長いのがオスのヒカリです。このヒカリ君、尾を立てた時に♥マークが見られると人気急上昇中です。ゆっくり見て行ってください。

⑤背中の羽が ふっさふさ

－ ダチョウ －

草原ゾーンの草原山で2頭飼育されています。オスが2010年にやってきた悠（推定10歳）、メスが2004年にやってきた蘭（16歳）。オスは黒く、メスは薄茶色です。

日中は悠々と草を食べています。長い首の上についた三角の顔の両脇にある目は、案外親しみやすく、双眼鏡で眺めても飽きません。

季節によってカラスが巣材にするために羽を抜きにやって来ることがあるので、夕方から小屋に入れてもらい避難します。おかげで現在は背中の羽も美しく揃っています。収容の時は小屋の扉を開けると入っていくのですが、自分から入らないときも飼育係の方が展示場に入ってゆっくり近づいて行くと、ダチョウはちょっと考えた後、やがてすっと素直に小屋に戻って行きます。

⑥ポニーって、どんな馬？

－ ウマ －

ふれあい動物の里には色も大きさもさまざまなウマがいて、係員さんに引いてもらって乗馬を楽しむことができます（有料）。天候によって乗馬は中止になることがあります。雷が鳴ったりすると、ウマは臆病なので驚いて走り出してしまう危険があるためです。

子ども動物園にはシェットランドポニーがいますが、このような小さなウマが「ポニー」かと思いきや、肩までの高さが 147 cm以下のウマをポニーと呼ぶのだそうです。ふれあい動物の里には結構大きなポニーがいますよ。探してみてください。

★ふだんはジッとしている動物も、食事のときは活発に動きますし、何をどんなふうに食べるのか、意外な発見があるかも。「食事時間のお知らせ」の園内放送がきこえたら、行ってごらんになることをおすすめします。飼育係さんに質問できるチャンスもあります。

★それぞれの動物が見られる場所は下の地図をご覧ください。

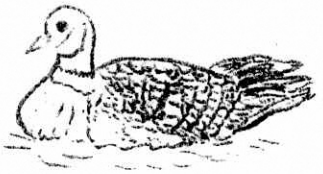
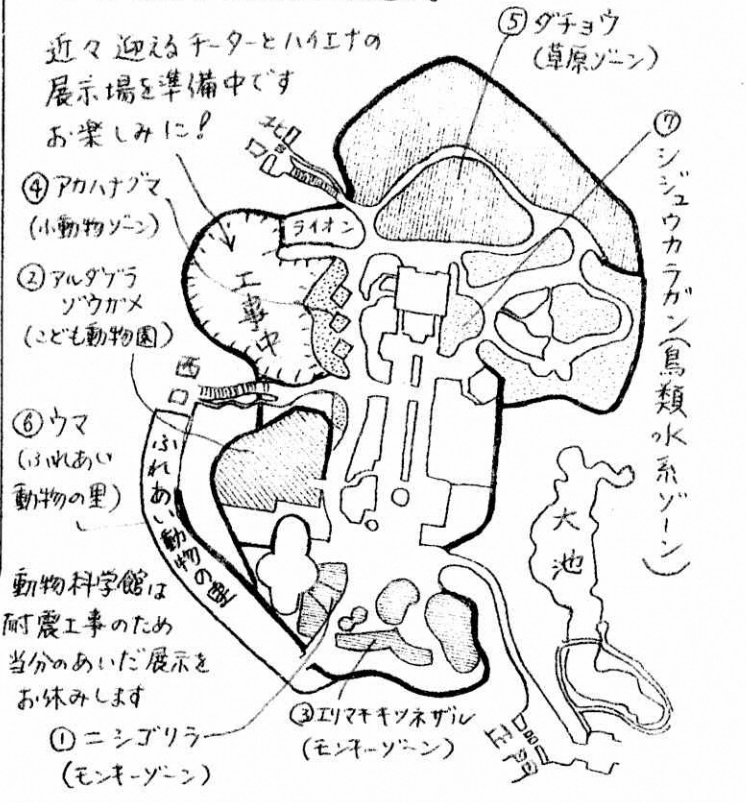
⑦動物園の努力で 絶滅から救われた

－ シジュウカラガン －

水鳥池では色とりどりの水鳥が仲良く暮らしていますが、それぞれのバックグラウンドは多様です。中でもシジュウカラガンは絶滅寸前まで数が減ったところを、人間の努力で増やすことができた数少ない例です。

もともとアリューシャン列島で繁殖し米国で越冬する群れと、千島列島で繁殖し宮城県等で越冬する群れがいましたが、人間が毛皮目的で繁殖地に放したキツネに食べられて激減。1983年から仙台市八木山動物公園を中心に、米国・ロシアと協力しながらキツネのいない島での放鳥をくり返し、近年では2千羽以上が日本に渡ってくるようになって絶滅の危機を脱しました。

首から上が黒く、あごに白いマスクをつけたような模様が特徴で、当園には8羽います。



★ボランティアが毎月第2、第4日曜にご家族で参加できるクイズ形式の動物ガイド「ZOOボラ・クイズDEガイド」をしています。当日園内放送でお知らせしますので、ふるってご参加ください。